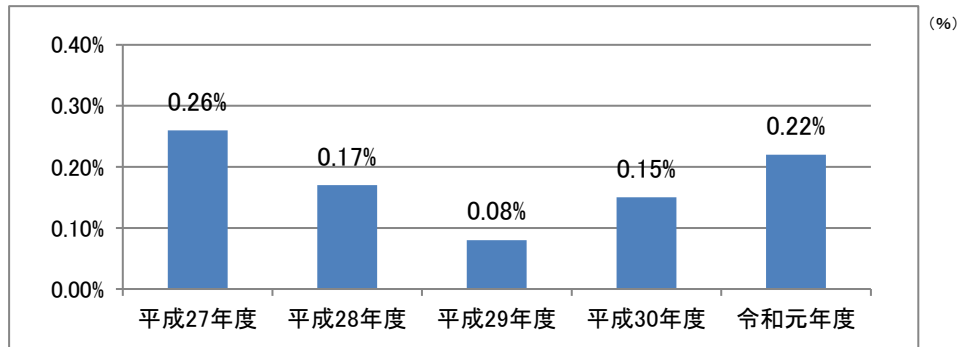


22 褥瘡発生率

○項目の解説

入院中に発生した褥瘡(床ずれ)は、患者のQOLを低下させ、入院の長期化につながることもあります。予防可能な褥瘡については、適切な診療やケアにより発生を回避できます。当該指標は予防への取り組みとその効果を示す指標です。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

褥瘡発生率は、平成30年度と比較し上昇しており、要因としてケアの未熟さなどもありますが、重症度の高い患者が多く、予防的介入が困難な場合もあると考えています。当院は、入院時の褥瘡発生リスクアセスメントや発生した褥瘡に関しても早期に介入が行えるよう体制を整えています。専従の皮膚・排泄ケア認定看護師は、学習会だけでなくベッドサイドケアに着目し、褥瘡について報告があった患者を対象に発生原因の検討や管理予防方法について指導しています。また、多職種からなる褥瘡チームは、定期的な回診やカンファレンスを通してより良い予防対策について各部署へ指導しています。

今後も引き続き、予防介入の徹底、エアマットなどの環境整備などとともに発生率の低下に努めてまいります。

○定義

当該年度1年間での、褥瘡発生率(入院してから新しく褥瘡を作った患者比率(%))です。

○算式

分子: 新規褥瘡発生患者数

分母: 年間入院患者数